

アンケート調査結果について

1 ワークショップのアンケート結果より

ワークショップに参加して考えたことや、感じたことを伺うため、無記名でのアンケートを行い 19 名から回答をいただきました。

【アンケート用紙】

平成 29 年 1 月 14 日

ワークショップ参加者アンケート

F1 ご参加いただいた方の性別

1 男性	2 女性
------	------

F2 ご参加いただいた方の年齢

1 20 歳代	4 50 歳代
2 30 歳代	5 60 歳代
3 40 歳代	6 70 歳以上

F3 お住まいの地区

1 赤羽地区	2 王子地区	3 滝野川地区
--------	--------	---------

問1 ワークショップを通して、今後どのような地域になればいいと思われましたか。

問2 地域で安心して暮らしていくために、一人ひとりができることは何だと思えますか。

問3 区民の地域保健福祉活動への参加を促進し、活動を活発化していくために、区が力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1 地域交流や活動に参加するきっかけづくり
2 地域活動に参加していない人(若い世代や働いている人など)への呼びかけ
3 地域交流や活動の場所の提供
4 地域活動の担い手の育成・支援
5 自治会、ボランティア団体などの自主的な活動への支援
6 自治会、ボランティア団体などの活動団体の情報提供
7 その他 ()

ご協力ありがとうございました。

【ご連絡先】※ご記入は必須ではありません。

お名前	<p>ご記入頂いた方には、区から地域保健福祉に関するお知らせやお問い合わせなどをさせていただきます場合があります。</p> <p>ご記入頂いた情報は、上記以外の目的には使用いたしません。</p>
ご住所	
電話番号	
E-mail	

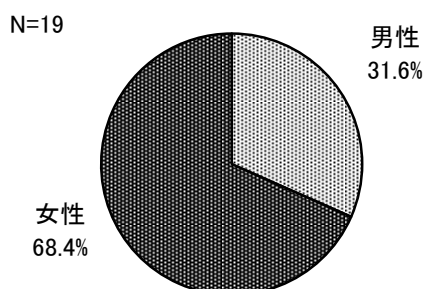
【アンケート結果】

F1 性別／F2 年齢

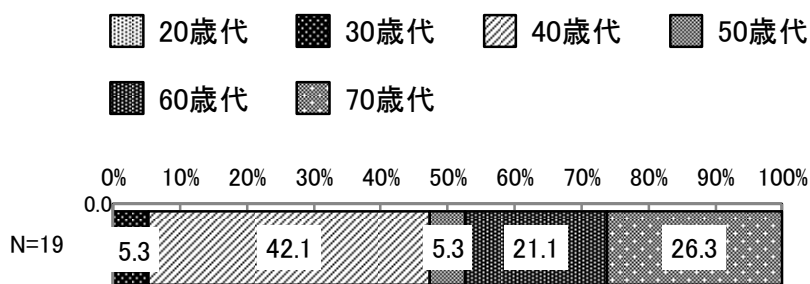
性別は、「女性」が68.4%で多く、「男性」が31.6%でした。

年齢は、「40歳代」が42.1%で最も多く、「70歳代」(26.3%)と「60歳代」(21.1%)がともに20%台、「30歳代」と「50歳代」がともに5.3%、「20歳代」の参加者はいませんでした。

○性別[%]



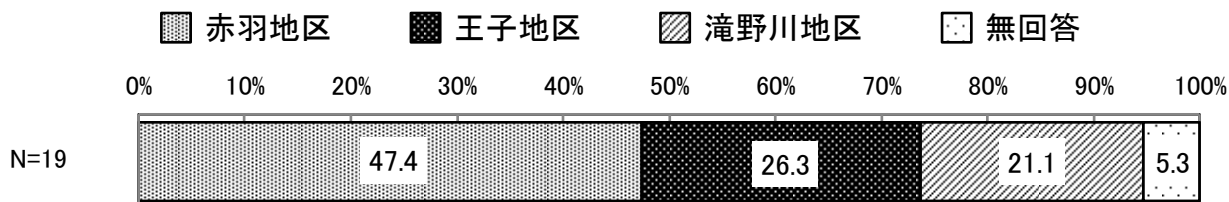
○年齢[%]



F3 居住地区

居住地区は、「赤羽地区」が47.4%で最も多く、「王子地区」が26.3%、「滝野川地区」が21.1%となっています。

○居住地区[%]



問1 ワークショップを通して、今後どのような地域になればいいと思いましたか。

全体では、多世代交流ができる地域、地域住民同士で助け合える地域、高齢者・子ども・障がい者・外国人など誰もが安心して暮らせる地域というご意見が、それぞれ複数ありました。

【記述一覧】

- ・多世代交流できる地域。
- ・多世代が自然に交流できる地域。
- ・多世代が分け隔てなく交流を日常的に行えばいいと思う。
- ・地域住民同士で普段から助け合える関係が構築されている。
- ・お互いさまという気持ちを持った人を増やせる地域
- ・色々な人と話し会える場所をつくることのできる地域
- ・お互いのことを知りやすい、交流しやすい、社会的孤立のない北区になって、23区の先駆けになってもらいたい。
- ・みんなの心が外国人も含めて1つにまとまればいいと思う。

- ・誰でも安心して暮らせる地域（心のバリアフリーをできる人が多い地域）
- ・高齢者、障がい者、児童の各々が共存できるための地域の集いの場ができるといいと思う。
- ・誰もが住みやすい、隣近所で気軽に助け合える地域。ノーマライゼーション。
- ・世代をこえて集える場、障がいの有無をこえて集える場。互いに支え合う気持ちを持った地域。
- ・互いを知り合える地域。それぞれ持っているスキルを出すことができる地域。
- ・地域の活動に関心を持って暮らす人が徐々に増えていくような情報発信力を持った区民の養成と行政の取り組みが実現される地域。
- ・誰とでも挨拶が出来るようになりたい。
- ・地域にある課題はさまざまだが、課題と課題の間に同じキーワードがあり、みんなで共通認識を持った。過不足なく誰もが情報を得て共に住みやすくなればいいと思った。
- ・地域福祉の充実したまち
- ・高齢者だけでなく全住民が住んでよかったと思えるような地域になってほしい。

問2 地域で安心して暮らしていくために、一人ひとりができることは何だと思いますか。

全体では、地域活動に参加する、他者（周囲）への関心、助け合いの気持ちを持つ、挨拶や声の掛け合いをするというご意見が、それぞれ複数ありました。

【記述一覧】

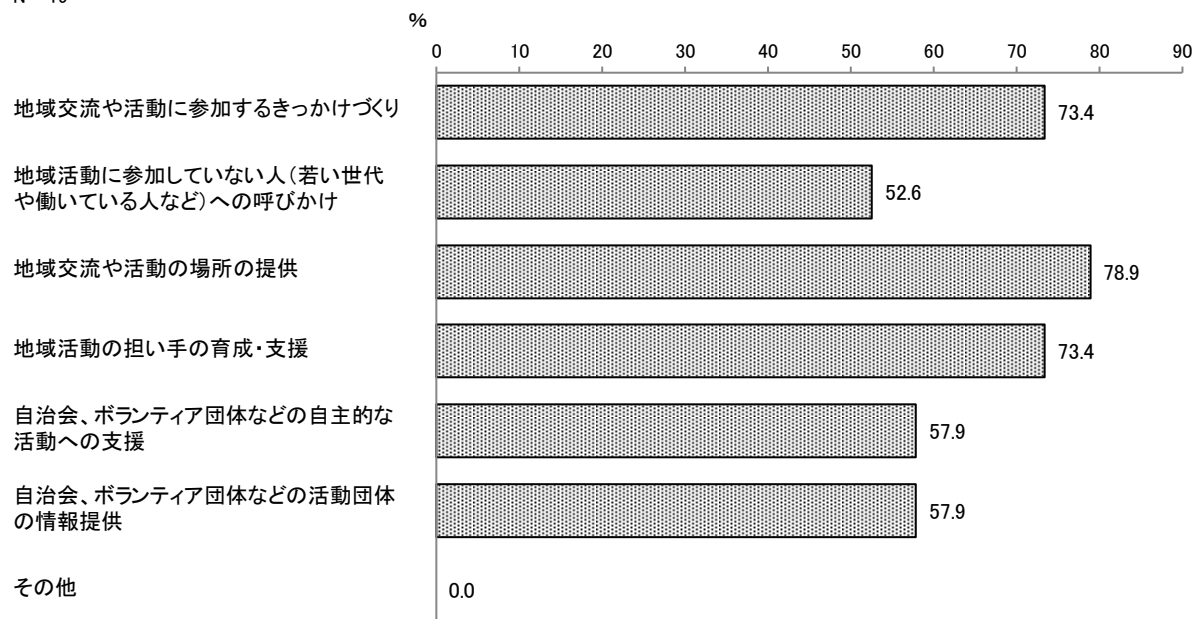
- ・多くの情報を把握し、自分が参加する。
- ・地域の諸活動に積極的に参加していく。
- ・自分自身の活動などプロフィールを多くの人に伝える。地域活動への参加と受入。
- ・地域の課題に目を向けて見守りに参加する。
- ・他者に興味をもつ。
- ・周囲（身近）に関心を持ち続けること。
- ・声の掛け合いをする。
- ・”お互い様”の精神で壁をつくらない。あいさつ、声かけを気軽にしていけるように努力する。
- ・相手の気持ちになって動く。
- ・健康で自立していくこと。人との上手な付き合いをする。
- ・自分のこととして一緒に考える。
- ・一人ひとりがどう生きたいか、どう生活していきたいかを考え、そのためには地域資源をどう使うかを考えることが必要。
- ・地域の人々に気を配り助け合いの気持ちを持つ。
- ・自分ができることを見つけて実行していく。
- ・お節介ができるようになればいいと思う。
- ・まずはきっかけづくりと個人が一步踏み出す勇気が必要だと思う。みんなが勇気を出せるように、できる範囲で情報提供していけたらいいと思う。
- ・コミュニケーションのとれた住民意識を育てる。

問3 区民の地域保健福祉活動への参加を促進し、活動を活発化していくために、区が力を入れるべきことは何だと思えますか。〔複数回答〕

区が力を入れるべきことについては、「地域交流や活動の場所の提供」が78.9%と最も多く、次いで「地域交流や活動に参加するきっかけづくり」、「地域活動の担い手の育成・支援」がともに73.4%で続いています。「自治会、ボランティア団体などの自主的な活動への支援」(57.9%)、「自治会、ボランティア団体などの活動団体の情報提供」(57.9%)、「地域活動に参加していない人(若い世代や働いている人など)への呼びかけ」(52.6%)が50%台となっています。

○区が力を入れるべきこと〔%・複数回答〕

N = 19



平成18年12月に開催された「地域の保健福祉に関するシンポジウム」では、「地域交流や活動に参加するきっかけをつくる」が41.0%と最も多く、「地域交流や活動の場所の提供」(32.5%)、「自治会、ボランティア団体などの活動団体の情報提供」(30.8%)が上位3項目でした。

2 北区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のためのアンケート調査結果より

「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」（平成 27～29 年度）の改定に向けて、平成 28 年 12 月に実施された高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のためのアンケート調査の結果の中から、高齢者の意識や現状を把握できる設問を紹介します。

(1) 【調査概要（一般高齢者調査）】

調査対象：要介護認定を受けていない 65 歳以上の区民 5,000 名（平成 28 年 11 月 1 日現在）

抽出方法：被保険者台帳から無作為抽出

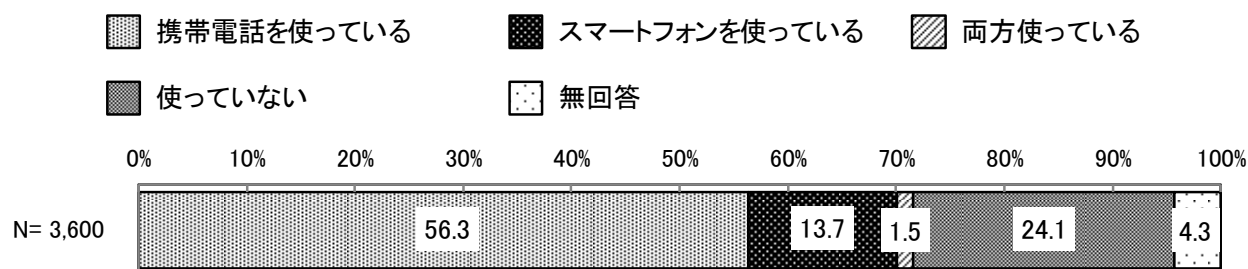
調査方法：郵送配布・郵送回収

調査期間：平成 28 年 12 月 14 日～12 月 27 日

回収状況：回収数 3,623 件（うち無効票 23 件）、有効回収率 72.0%

○携帯電話・スマートフォンの使用状況

『使用している』（「携帯電話を使っている」＋「スマートフォンを使っている」＋「両方使っている」）が 71.5%で、「使っていない」が 24.1%となっています。

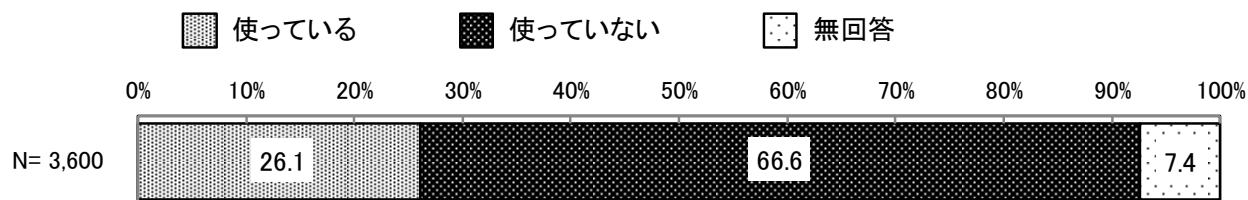


【クロス集計の分析（年齢別）】

携帯電話、スマートフォンともに、概ね年齢が若いほうが使用している人が多いですが、携帯電話は 80 歳以上でも 3 割以上の方が使用しています。

○パソコンの使用状況

「使っていない」が 66.6%、「使っている」が 26.1%となっています。

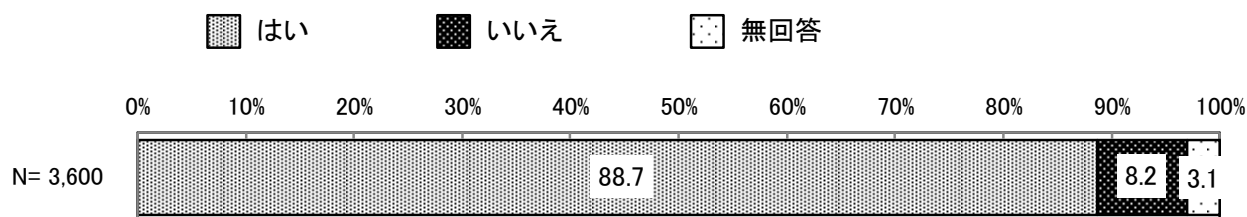


【クロス集計の分析（男女別）】

「使っている」が男性で 36.4%と、女性の 19.4%に比べ多くなっています。

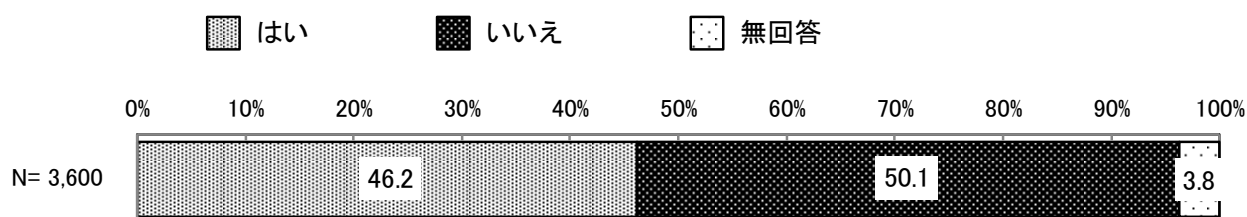
○健康についての記事や番組に関心があるか

「はい」が88.7%と多く、「いいえ」は8.2%となっています。



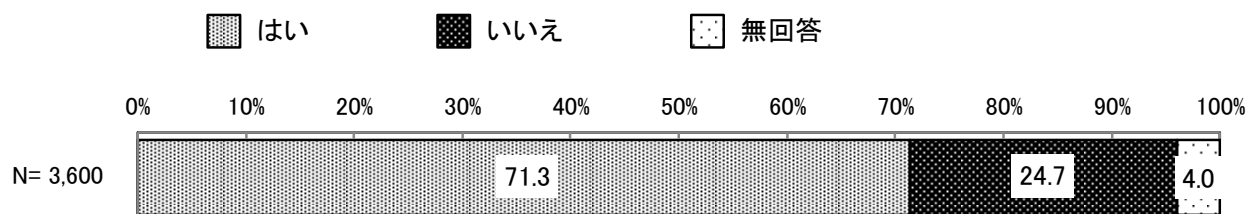
○友人の家を訪ねているか

「いいえ」が50.1%と、「はい」(46.2%)よりやや多くなっています。



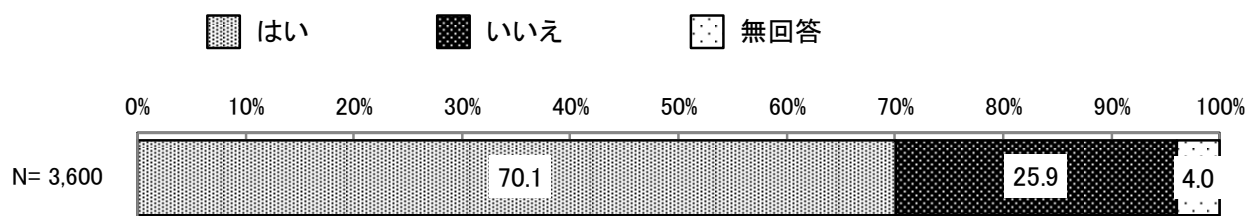
○家族や友人の相談にのっているか

「はい」が71.3%と多く、「いいえ」は24.7%となっています。



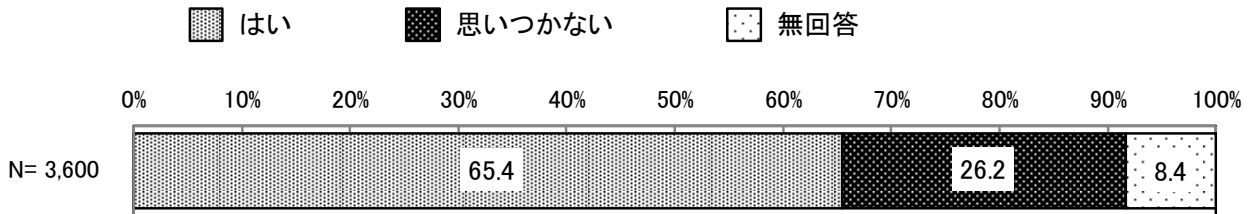
○若い人に話しかけることがあるか

「はい」が70.1%と多く、「いいえ」が25.9%となっています。



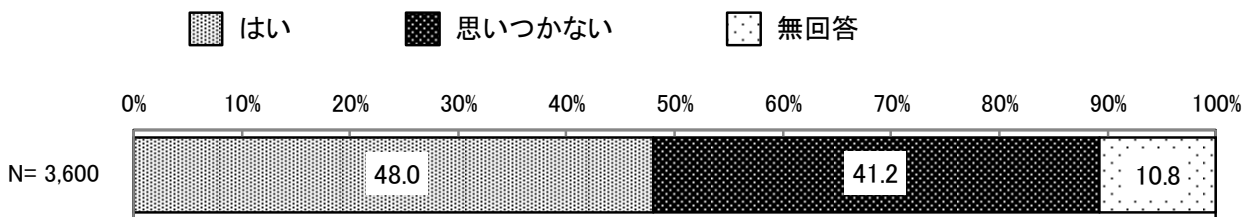
○趣味の有無

「はい」が65.4%、「思いつかない」が26.2%となっています。



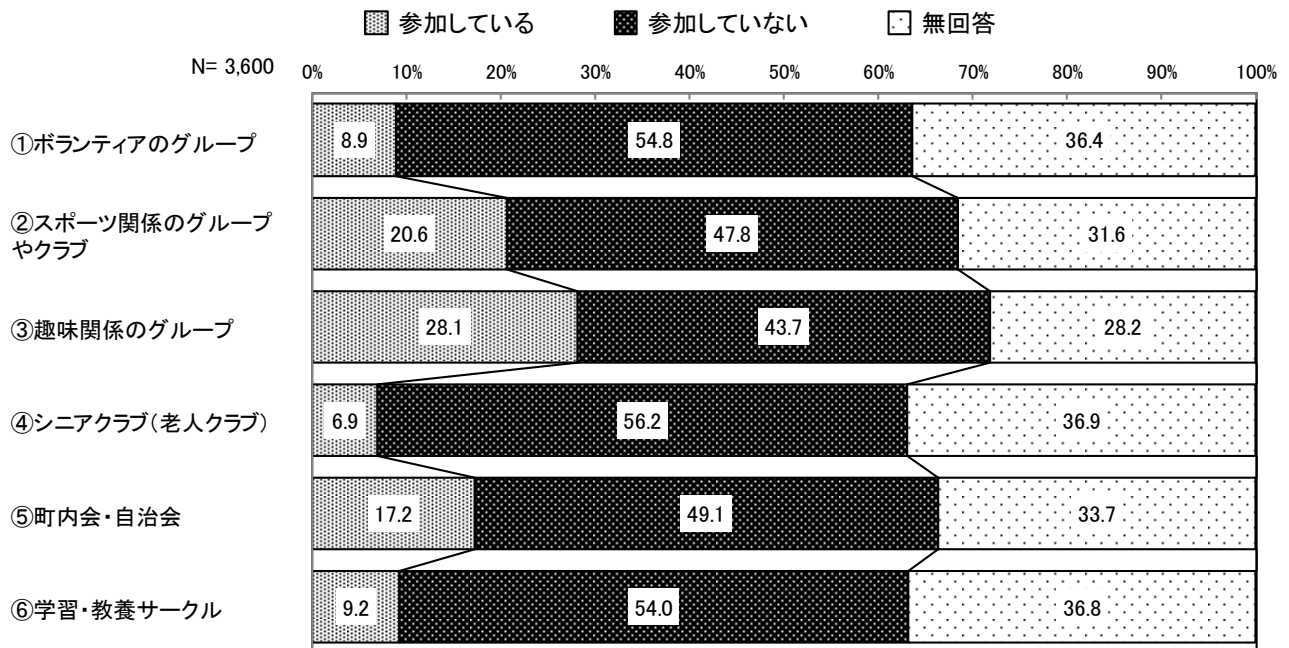
○生きがいの有無

「はい」が48.0%と、「思いつかない」(41.2%)よりやや多くなっています。



○地域活動への参加状況

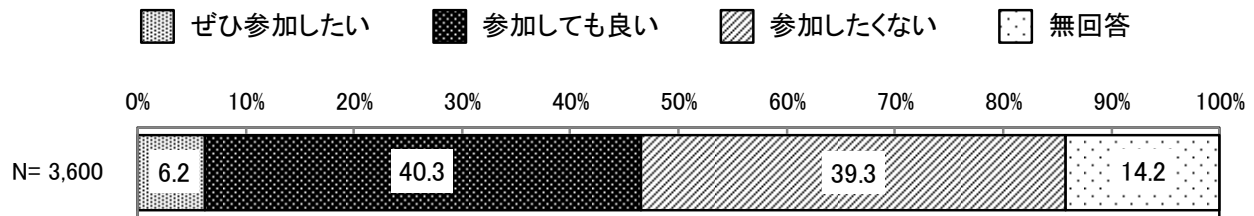
いずれの活動においても「参加していない」が最も多く、「参加している」では③趣味関係のグループ(28.1%)、②スポーツ関係のグループやクラブ(20.6%)、⑤町内会・自治会(17.2%)の順となっています。



○地域づくり活動での参加意向

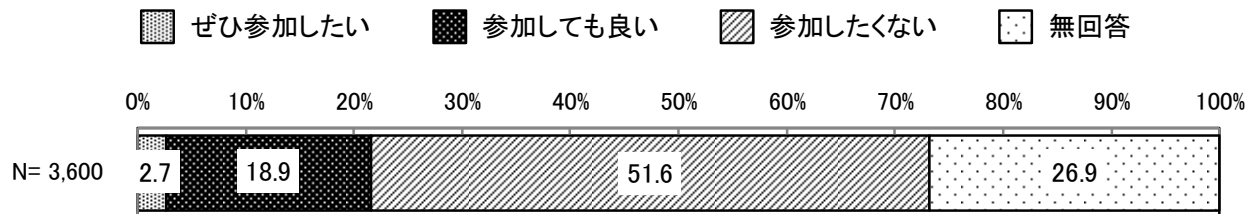
①参加者として

『参加意向あり』（「ぜひ参加したい」＋「参加しても良い」）が 46.5%で、「参加したくない」が 39.3%となっています。



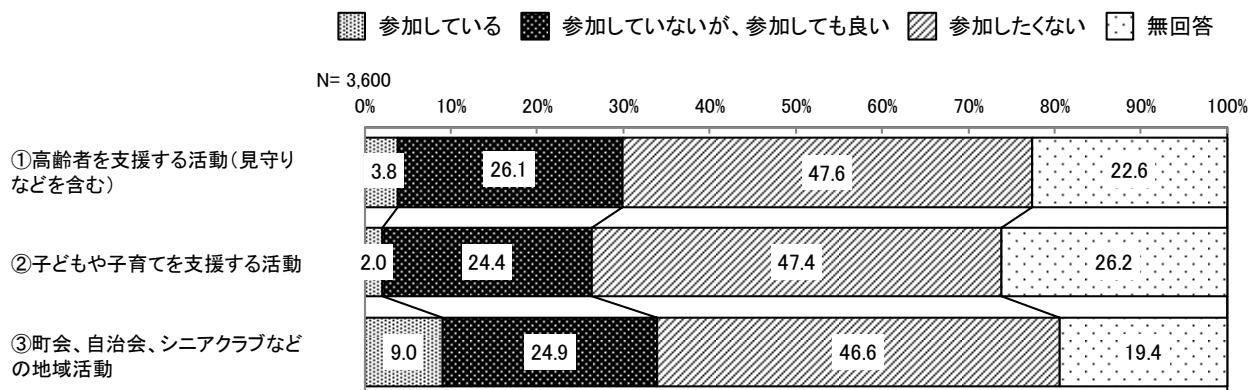
②企画・運営（お世話役）として

『参加意向あり』（「ぜひ参加したい」＋「参加しても良い」）が 21.6%で、「参加したくない」が 51.6%となっています。



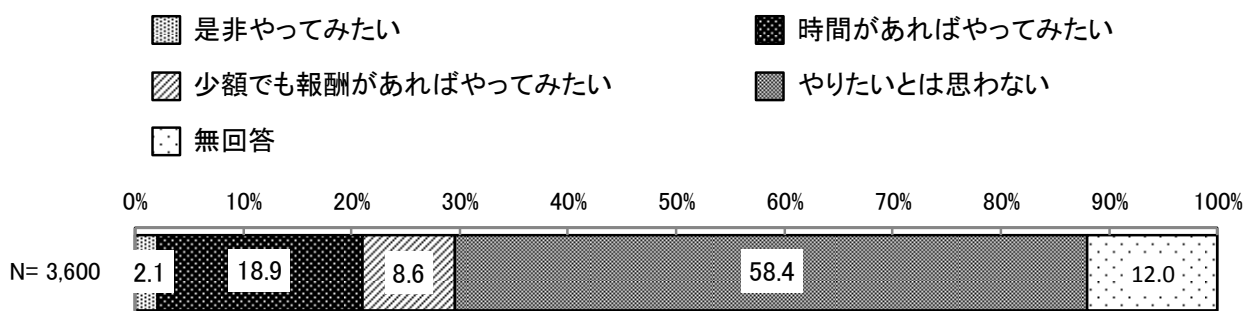
○地域活動への参加状況・参加意向

いずれの活動においても「参加したくない」が最も多く、「参加している」では□町会、自治会、シニアクラブなどの地域活動が 9.0%と、他の活動に比べやや多くなっています。「参加していないが、参加しても良い」では、いずれの活動も 20%台半ばでほぼ同程度となっています。



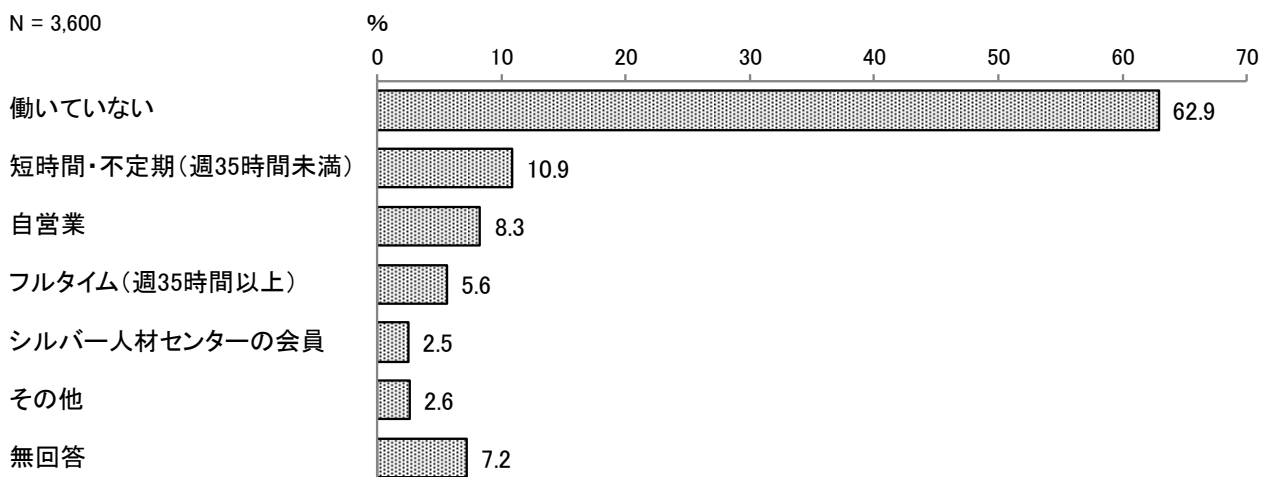
○生活支援（掃除・洗濯など）やデイサービス職員の補助業務等への参加意向

「やりたいとは思わない」が 58.4%と最も多く、『やってみたい』（「ぜひやってみたい」＋「時間があればやってみたい」＋「少額でも報酬があればやってみたい」）が 29.6%となっています。



○就労状況

「働いていない」が 62.9%と最も多く、『働いている』（「短時間・不定期（週 35 時間未満）」＋「自営業」＋「フルタイム（週 35 時間以上）」）が 24.8%となっています。また、「シルバー人材センターの会員」は 2.5%となっています。

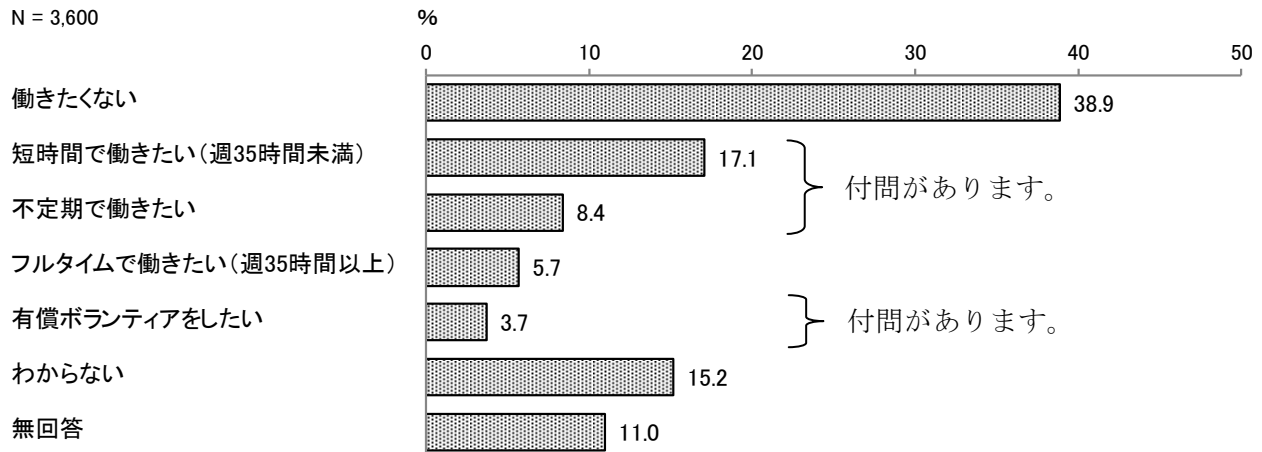


【クロス集計の分析（年齢別）】

65～69 歳では、「短時間・不定期（週 35 時間未満）」が 21.3%と、全体に比べ多くなっています。

○今後の就労意向

「働きたくない」が 38.9%で最も多く、『働きたい』（「短時間で働きたい（週 35 時間未満）」＋「不
定期で働きたい」＋「フルタイムで働きたい（週 35 時間以上）」）が 31.2%となっています。また、
「有償ボランティアをしたい」は 3.7%です。



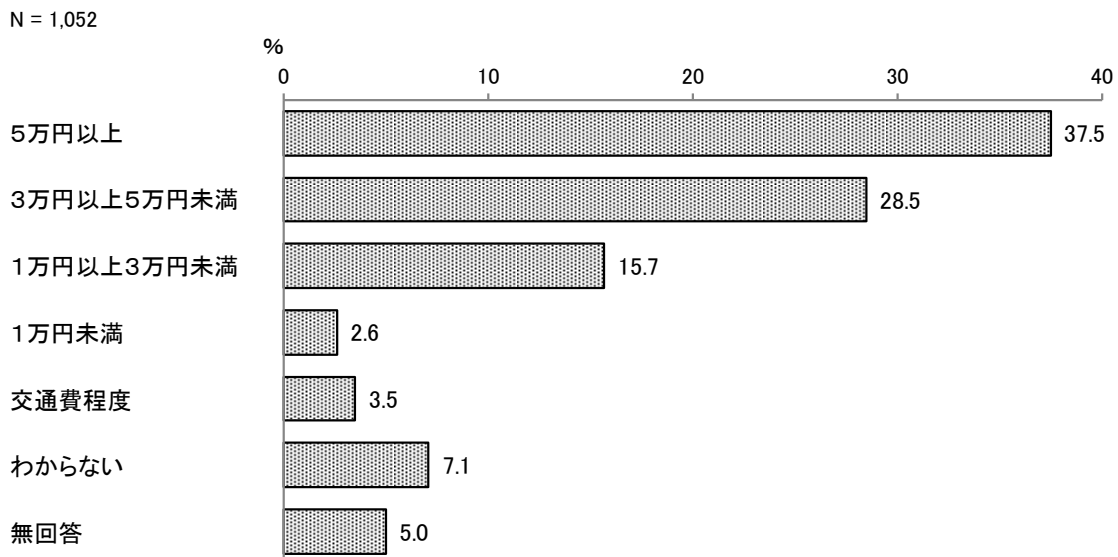
【クロス集計の分析（年齢別）】

65～69 歳では、「短時間で働きたい（週 35 時間未満）」が 28.5%と、全体に比べ多くなっ
ています。

○希望する報酬額

※前問で「短時間で働きたい」「不定期で働きたい」「有償ボランティアをしたい」と回答した方のみ

「5 万円以上」が 37.5%と最も多く、「3 万円以上 5 万円未満」が 28.5%、「1 万円以上 3 万円未満」
が 15.7%となっています。



【クロス集計の分析（性別、年齢別）】

性別では、「5 万円以上」が男性で 43.5%であるのに対して、女性では 32.5%と、男性の方
が多くなっています。

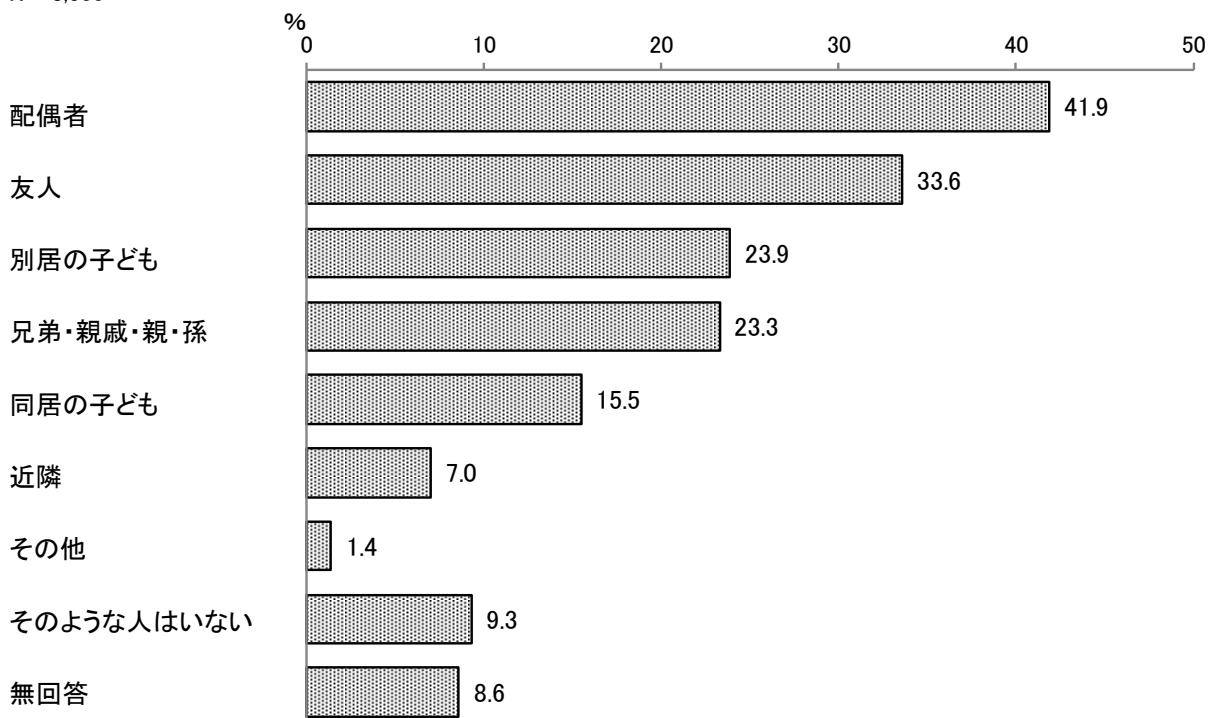
年齢別では、65～69 歳では 49.1%と全体より多く、年齢が上がるにつれて減っています。

○たすけあえる人〔複数回答〕

①心配事や愚痴を聞いてくれる人

「配偶者」が41.9%で最も多く、次いで「友人」が33.6%で、「別居の子ども」、「兄弟・親戚・親・孫」がともに20%台で続いています。また、「そのような人はいない」は9.3%となっています。

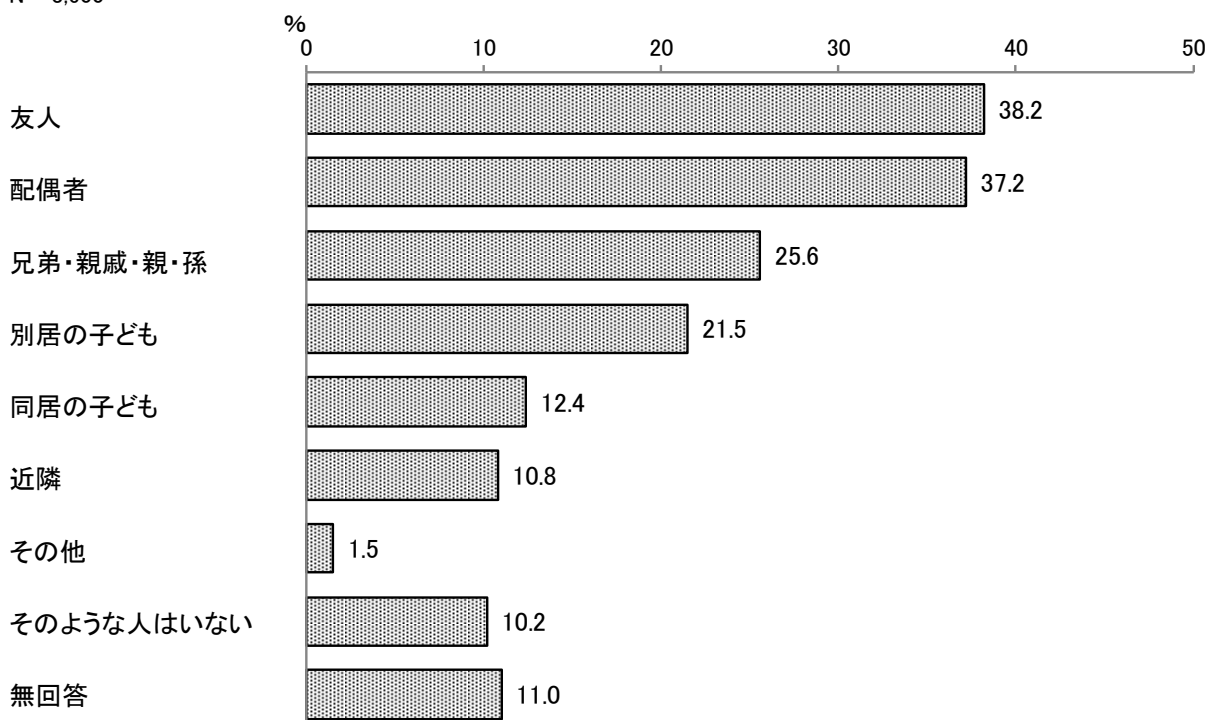
N = 3,600



②心配事や愚痴を聞いてあげる人

「友人」が38.2%、「配偶者」が37.2%で多く、「兄弟・親戚・親・孫」、「別居の子ども」が20%台で続いています。また、「そのような人はいない」は10.2%となっています。

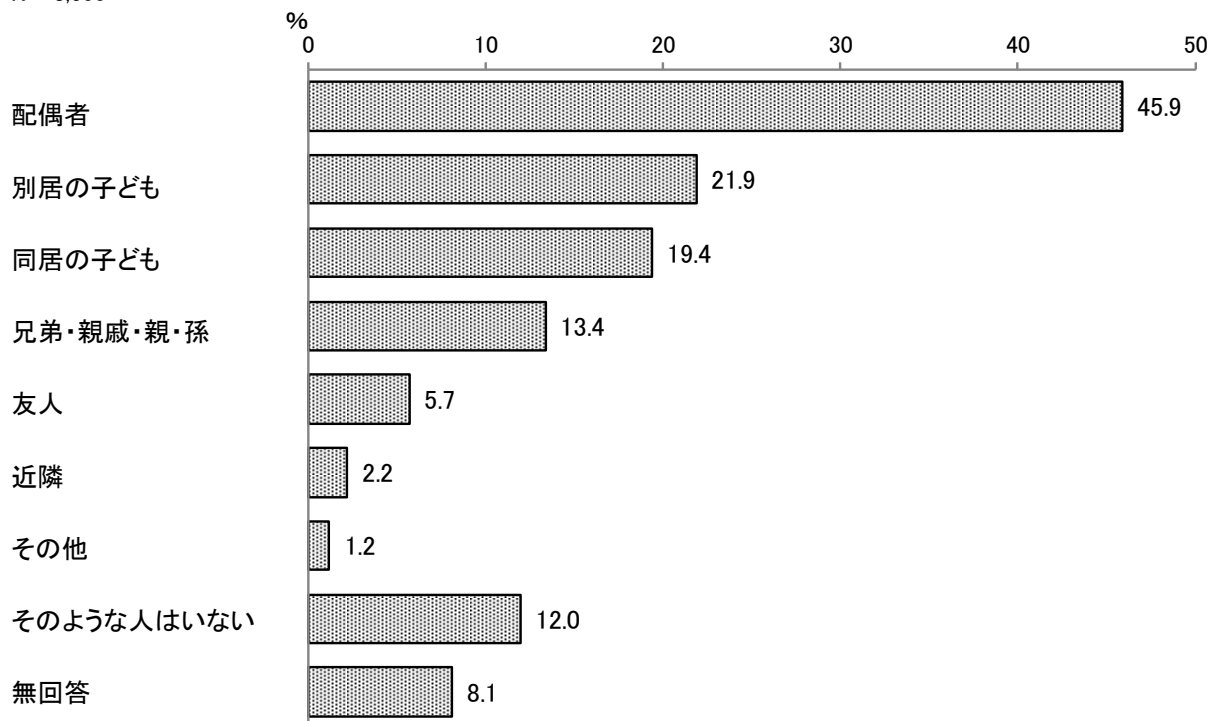
N = 3,600



③病気で数日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

「配偶者」が45.9%で最も多くなっています。次いで「別居の子ども」が21.9%で、「同居の子ども」(19.4%)、「兄弟・親戚・親・孫」(13.4%)と続いています。また、「そのような人はいない」は12.0%となっています。

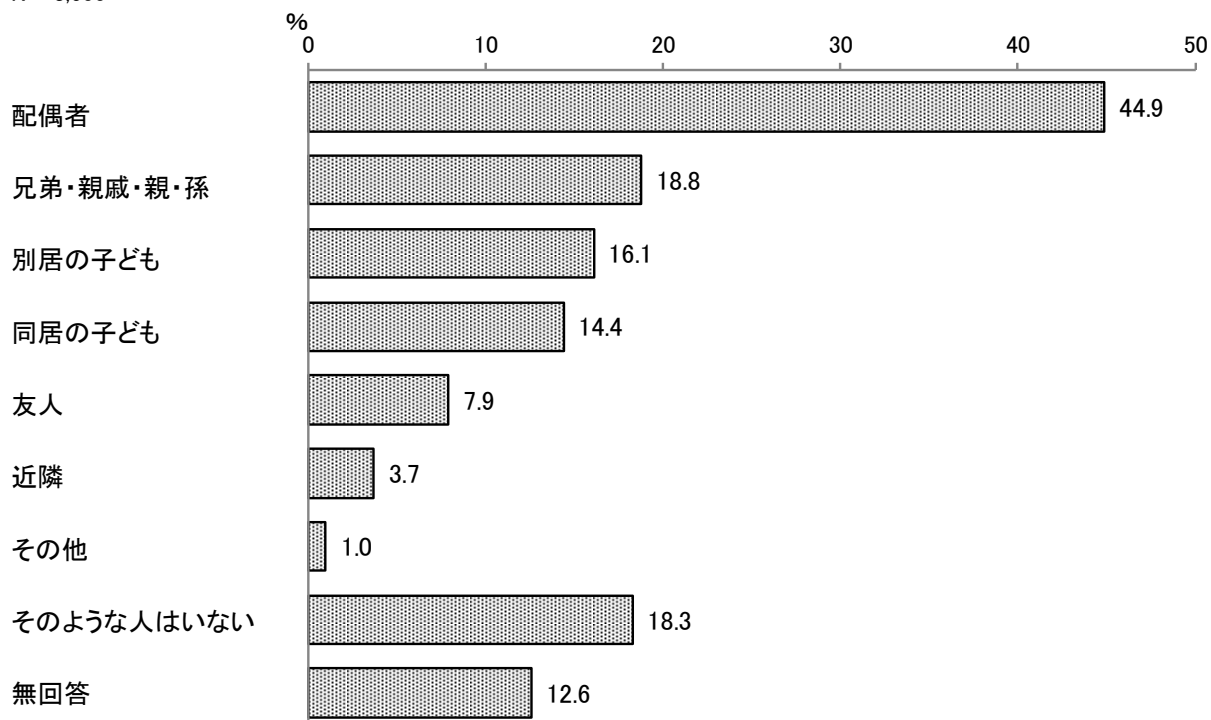
N = 3,600



④看病や世話をしてあげる人

「配偶者」が44.9%で最も多く、「兄弟・親戚・親・孫」、「別居の子ども」、「同居の子ども」が10%台で続いています。また、「そのような人はいない」は18.3%となっています。

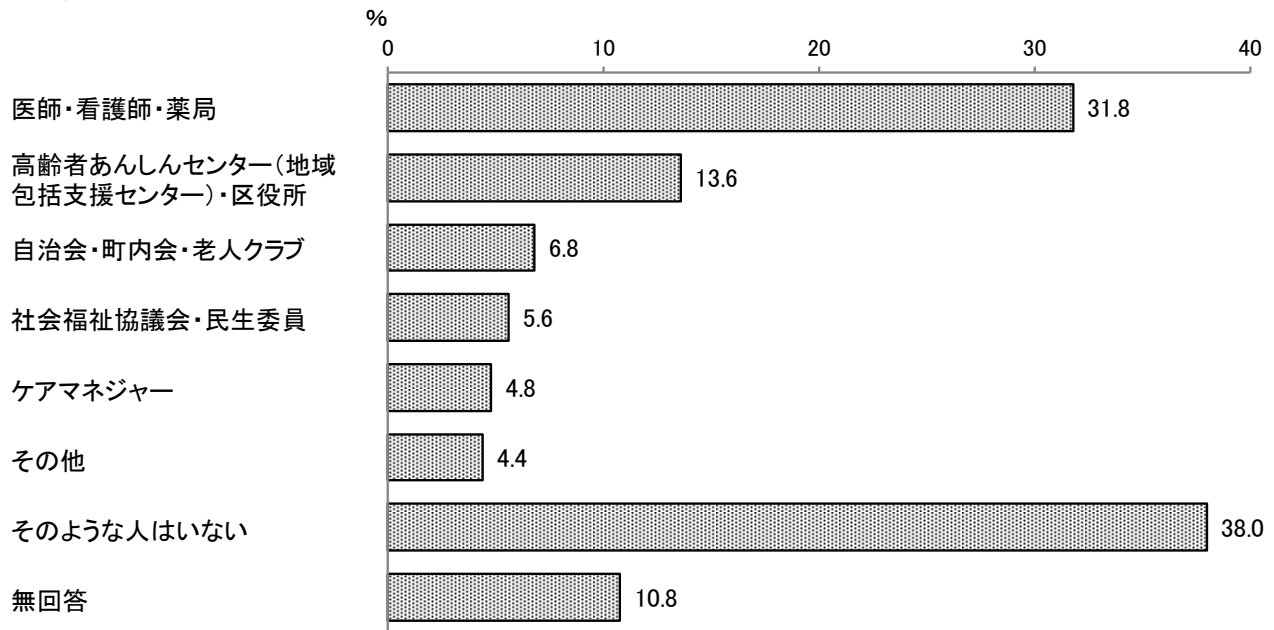
N = 3,600



○家族や友人・知人以外の相談先〔複数回答〕

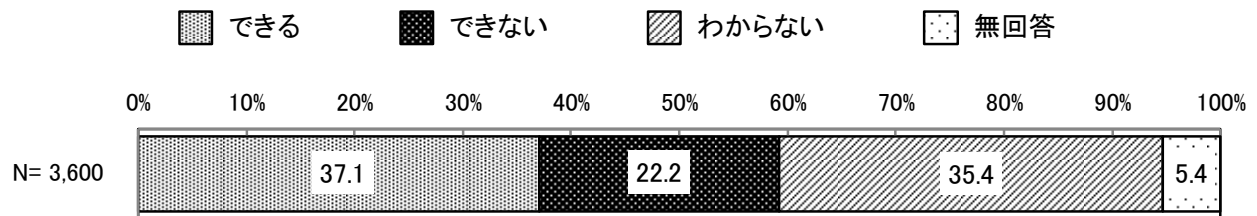
「医師・看護師・薬局」が31.8%で最も多く、次いで「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）・区役所」が13.6%となっています。また、「そのような人はいない」は38.0%です。

N = 3,600



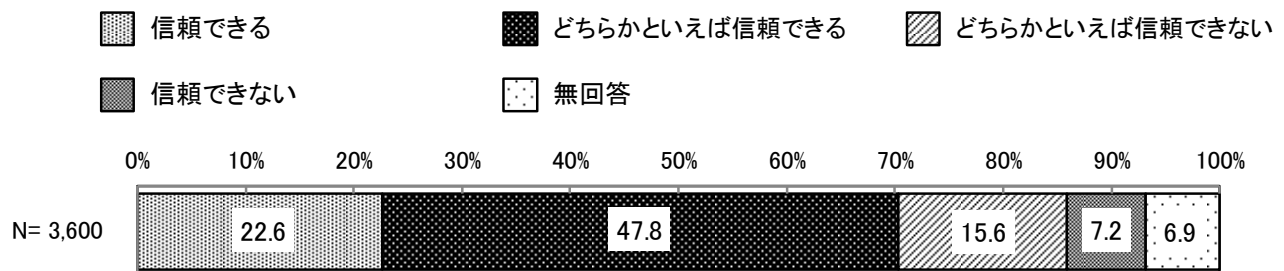
○災害時・緊急時に人の手助けができるか

「できる」が37.1%で、「できない」が22.2%となっています。「わからない」は35.4%です。



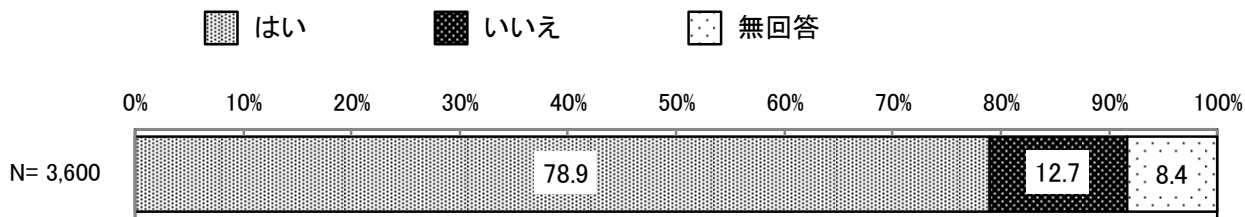
○ご近所の方を信頼できるか

『信頼できる』（「信頼できる」＋「どちらかといえば信頼できる」）が70.4%で、『信頼できない』（「どちらかといえば信頼できない」＋「信頼できない」）が22.8%となっています。



○かかりつけ医の有無

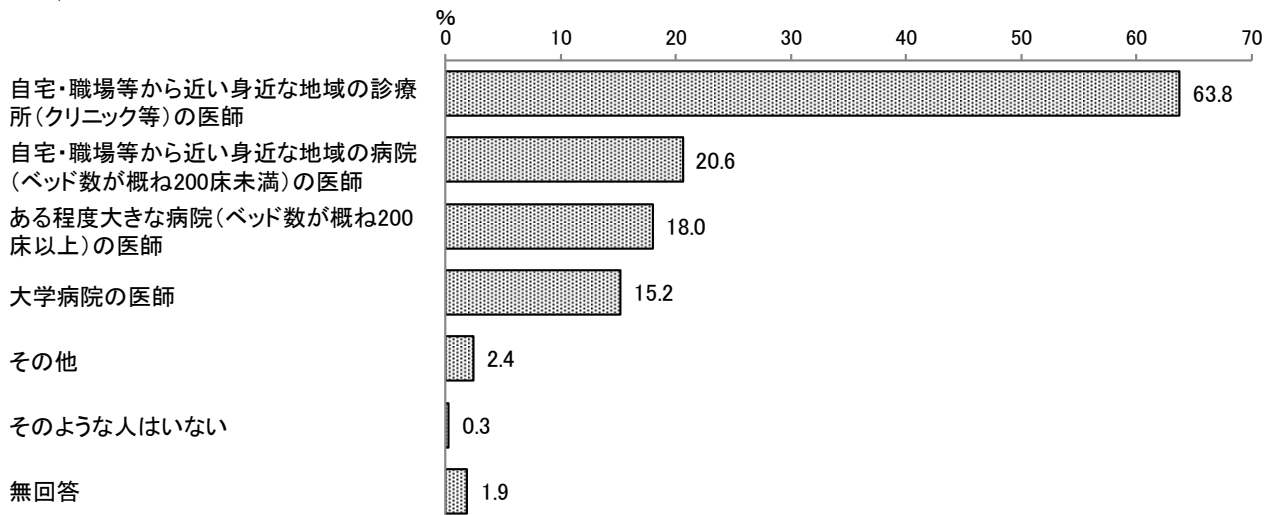
「はい」が78.9%と多く、「いいえ」は12.7%である。



○かかりつけ医の種類〔複数回答〕

「自宅・職場等から近い身近な地域の診療所（クリニック等）の医師」が63.8%と最も多く、「自宅・職場等から近い身近な地域の病院（ベッド数が概ね200床未満）の医師」、「ある程度大きな病院（ベッド数が概ね200床以上）の医師」、「大学病院の医師」の順となっています。また、「そのような人はいない」は0.3%と僅かでした。

N = 2,840



(2) 【調査概要（認定者調査）】

調査対象：要介護（要支援）認定を受けている 65 歳以上の区民 2,000 名（平成 28 年 11 月 1 日現在）

抽出方法：被保険者台帳から無作為抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収

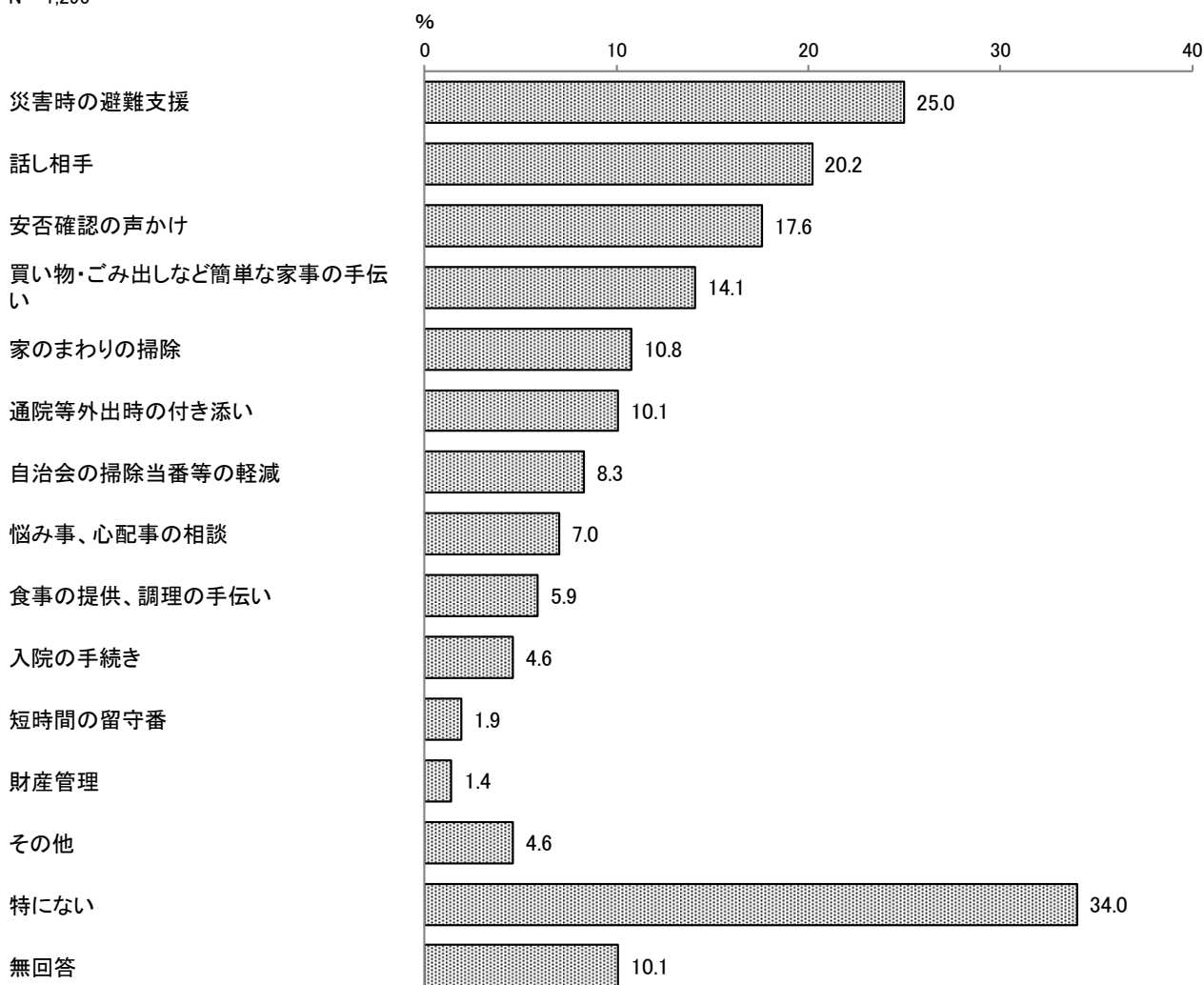
調査期間：平成 28 年 12 月 14 日～12 月 27 日

回収状況：回収数 1,306 件（うち無効票 11 件）、有効回収率 64.8%

○近所の人に手助けしてほしいこと〔複数回答〕

「災害時の避難支援」が 25.0%で最も多く、次いで「話し相手」が 20.2%で、「安否確認の声かけ」、「買い物・ごみ出しなど簡単な家事の手伝い」、「家のまわりの掃除」、「通院等外出時の付き添い」が 10%台で続いています。また、「特にない」は 34.0%となっています。

N = 1,295



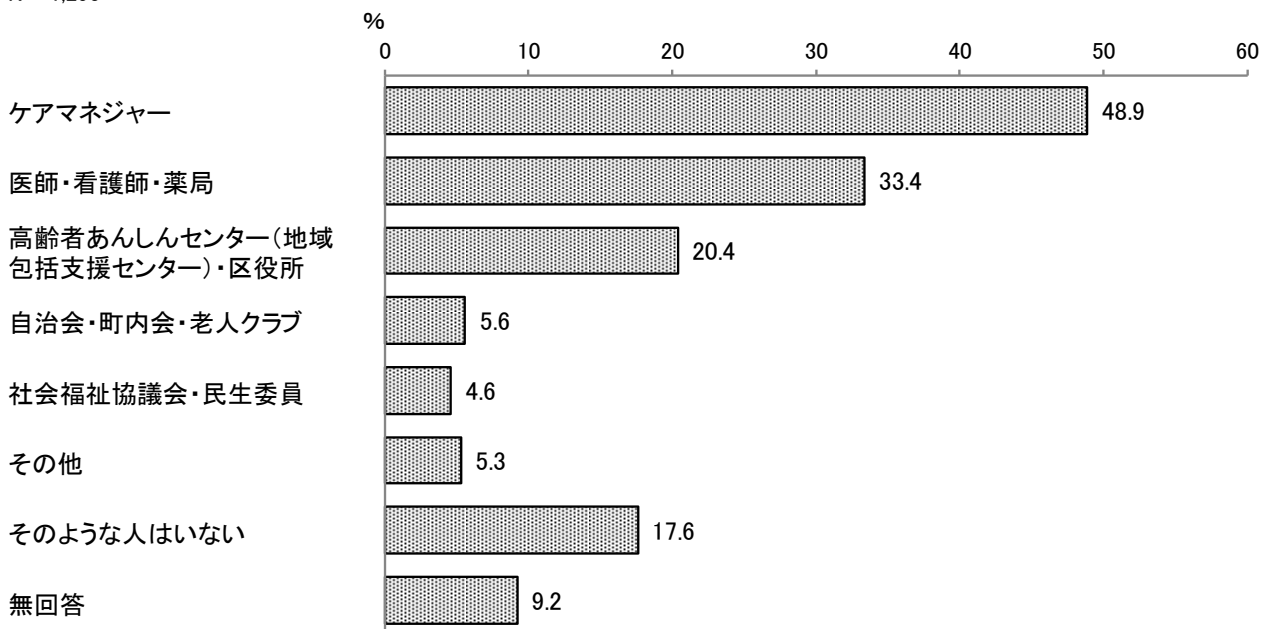
【クロス集計の分析（家族構成別）】

1人暮らしでは、「安否確認の声かけ」、「買い物・ごみ出しなど簡単な家事の手伝い」が、家族と暮らしている方と比べ多くなっています。

○家族や友人・知人以外の相談先〔複数回答〕

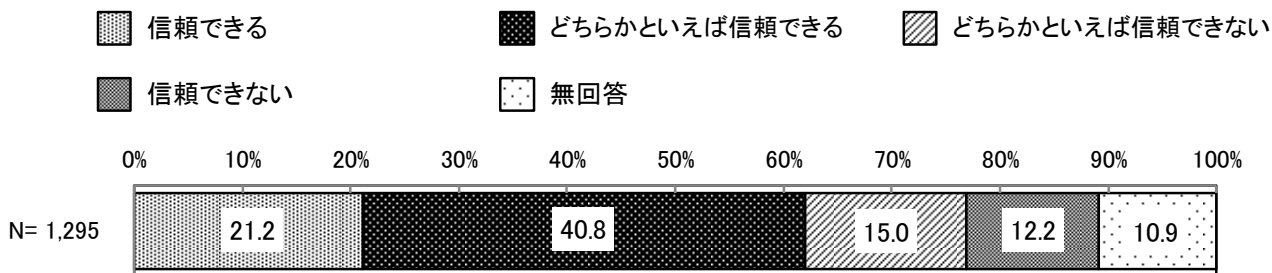
「ケアマネジャー」が48.9%と約半数で、「医師・看護師・薬局」が33.4%、「高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）・区役所」が20.4%となっています。また、「そのような人はいない」は17.6%です。

N = 1,295



○ご近所の方を信頼できるか

『信頼できる』（「信頼できる」＋「どちらかといえば信頼できる」）が62.0%で、『信頼できない』（「どちらかといえば信頼できない」＋「信頼できない」）が27.2%となっています。



3 北区民意識・意向調査より

「北区中期計画」(平成 27～29 年度)の改定に向けて、平成 28 年 6 月に実施された区民意識・意向調査の結果の中から、地域福祉に関わる設問を紹介します。

【調査概要】

調査対象：住民基本台帳に記載されている満 20～80 歳の男女 2,000 名 (平成 28 年 5 月 20 日現在)

抽出方法：住民基本台帳から層化二段無作為抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収

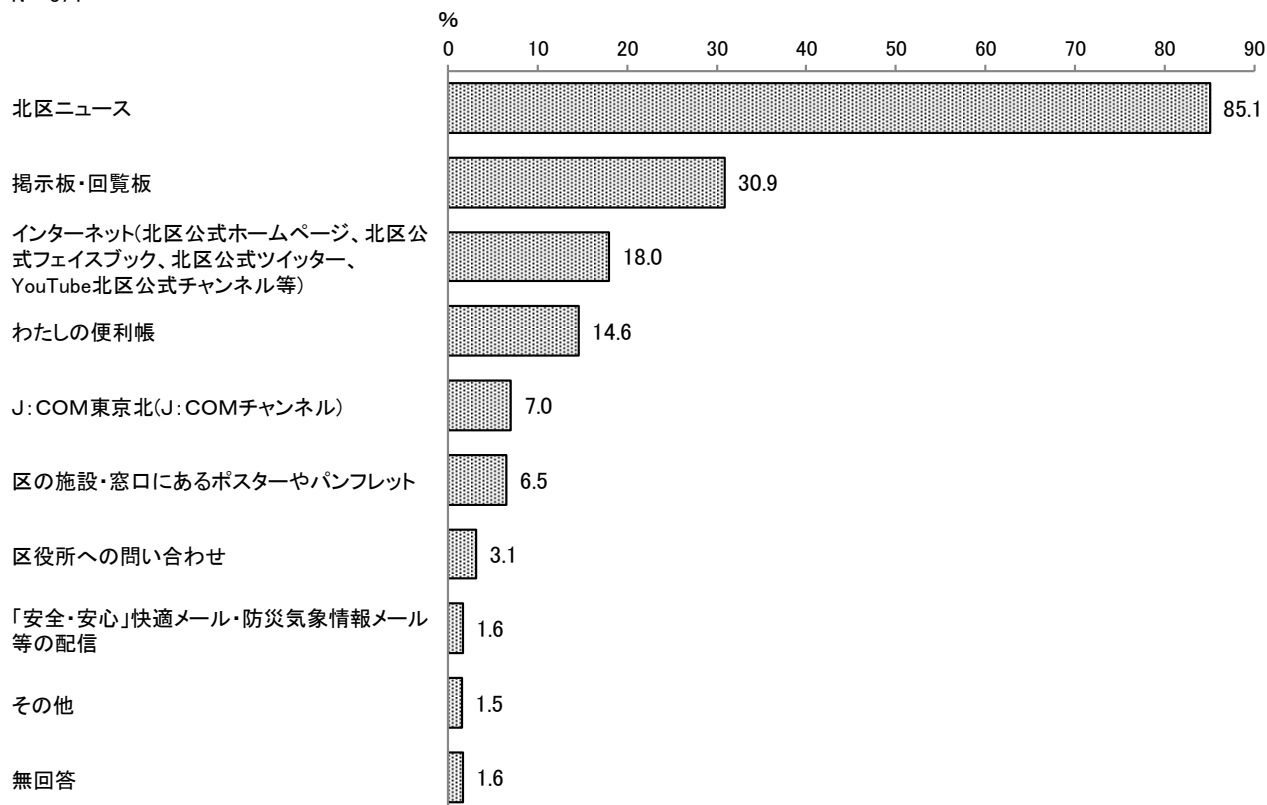
調査期間：平成 28 年 6 月 1 日～6 月 30 日

回収状況：回収数 874 件、有効回収率 44.0%

○区政情報の入手先〔複数回答〕

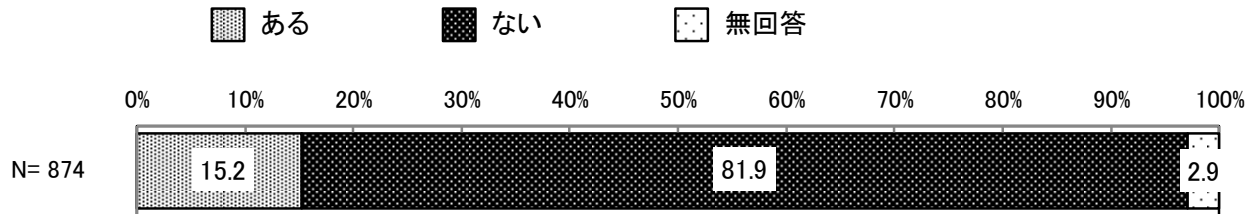
「北区ニュース」が 85.1%と最も多く、次いで「掲示板・回覧板」が 30.9%となっています。「インターネット(北区公式ホームページ、北区公式フェイスブック、北区公式ツイッター、YouTube 北区公式チャンネル等)」、「わたしの便利帳」は 10%台です。

N = 874



○区政参画等の状況

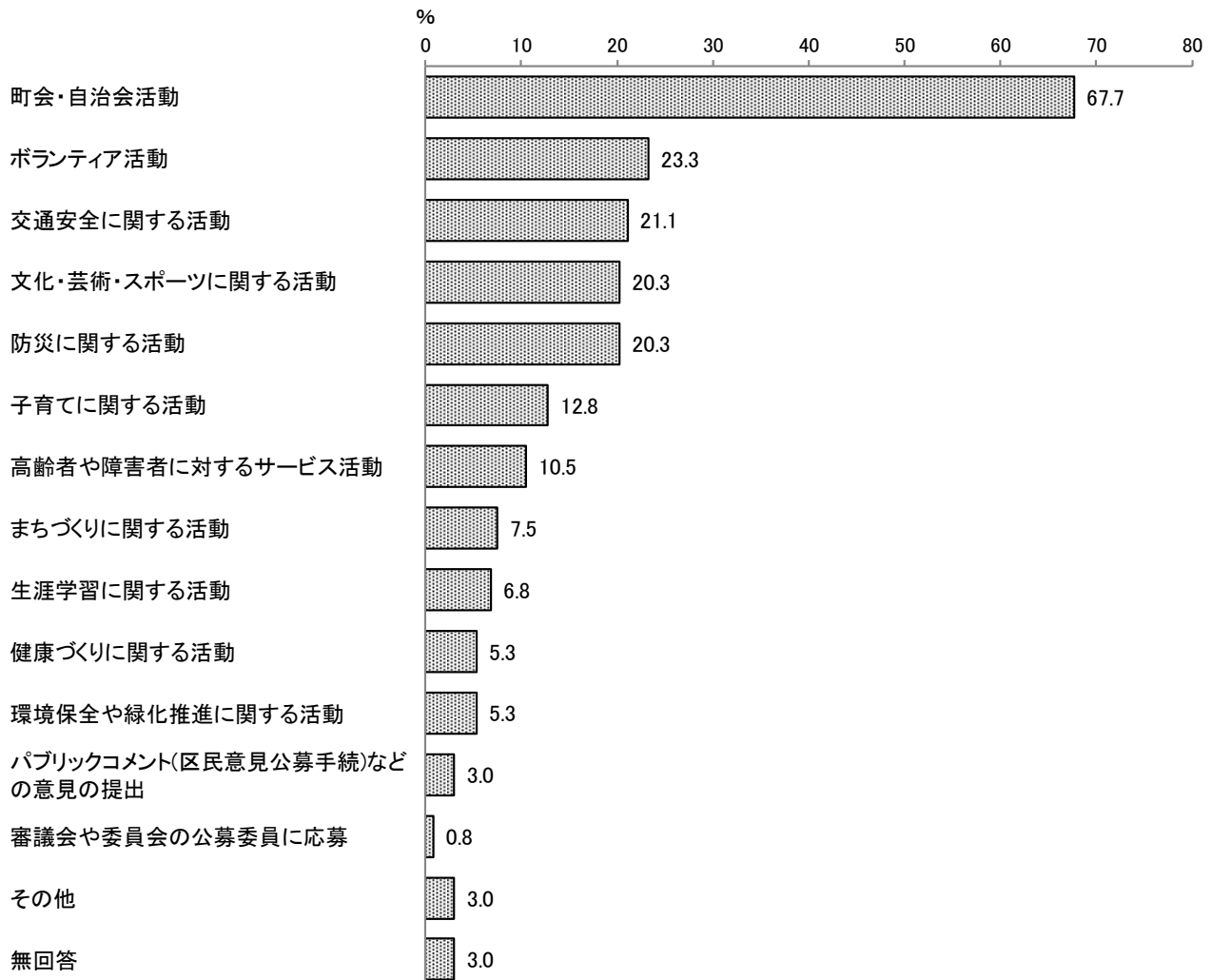
「ない」が81.9%と多く、「ある」は15.2%です。



○区政参画等の内容〔複数回答〕

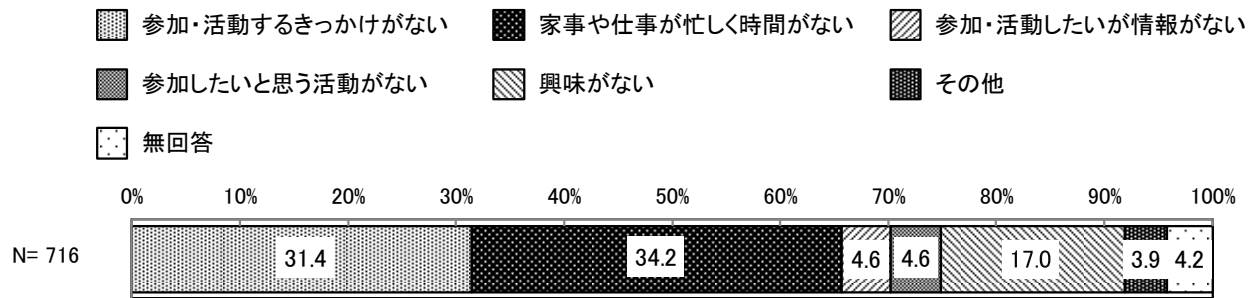
「町会・自治会活動」が67.7%と最も多く、「ボランティア活動」、「交通安全に関する活動」、「文化・芸術・スポーツに関する活動」、「防災に関する活動」が20%台、「子育てに関する活動」、「高齢者や障害者に対するサービス活動」は10%台となっています。

N = 133



○区政参画等しない理由

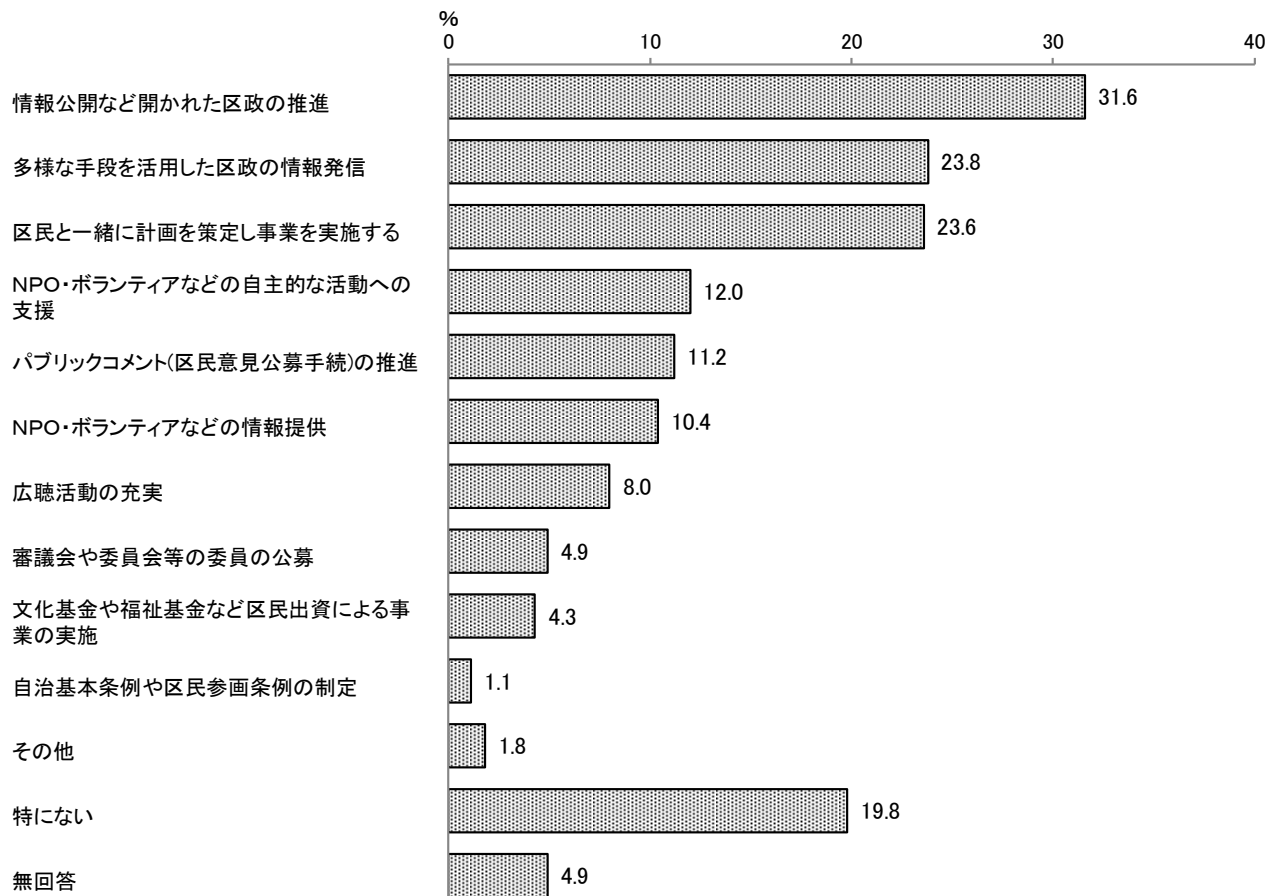
「家事や仕事が忙しく時間がない」が34.2%、「参加・活動するきっかけがない」が31.4%で多く、次いで「興味がない」が17.0%となっています。



○区政参画等のための重点施策〔複数回答〕

「情報公開など開かれた区政の推進」が31.6%と最も多く、「多様な手段を活用した区政の情報発信」、「区民と一緒に計画を策定し事業を実施する」がともに20%台となっています。また、「特にない」は19.8%となっています。

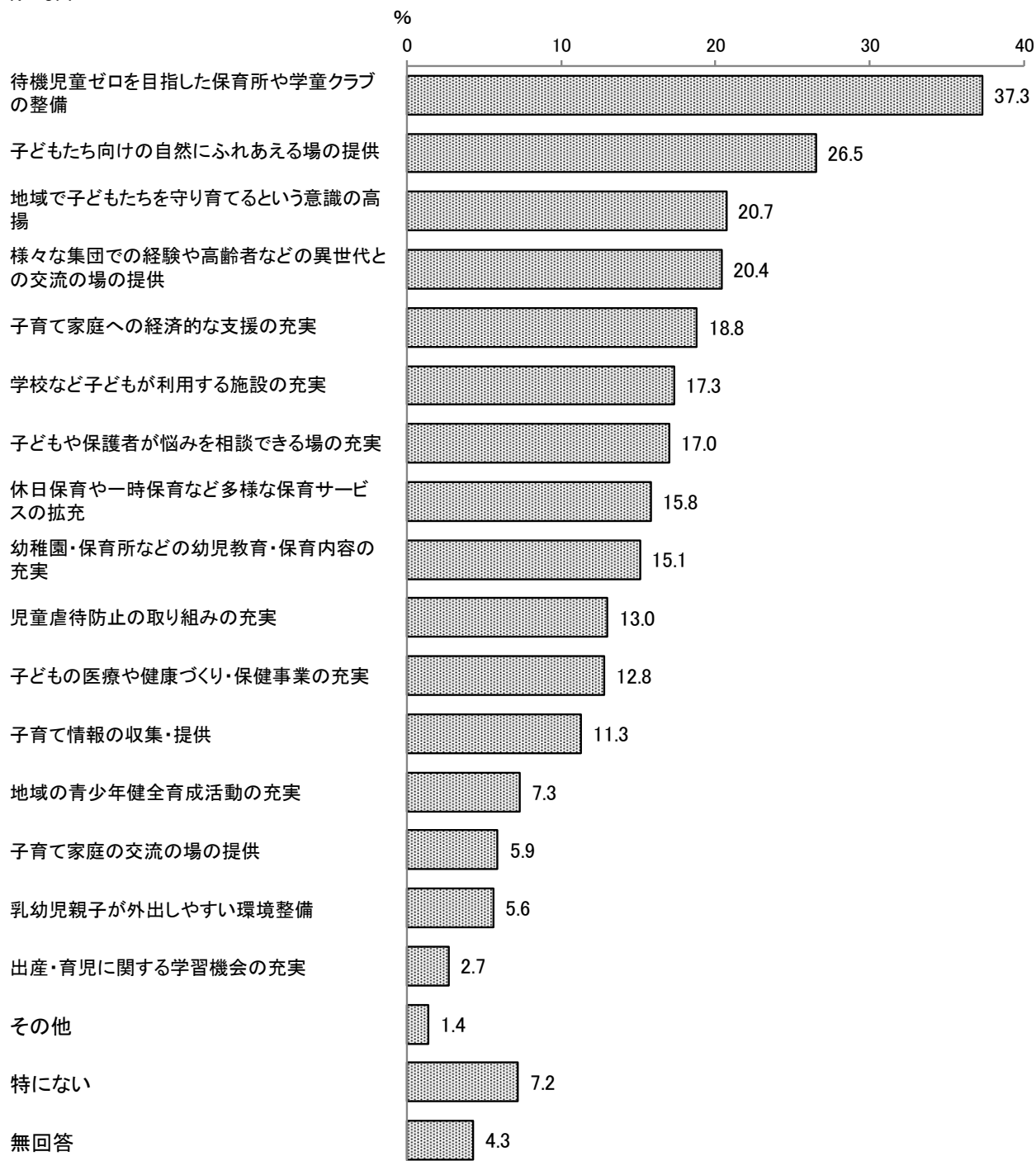
N = 874



○子育て支援のための重点施策〔複数回答〕

「待機児童ゼロを目指した保育所や学童クラブの整備」が37.3%と最も多く、次いで「子どもたち向けの自然にふれあえる場の提供」が26.5%、「地域で子どもたちを守り育てるという意識の高揚」、「様々な集団での経験や高齢者などの異世代との交流の場の提供」が20%程度となっています。また、「特にない」は7.2%となっています。

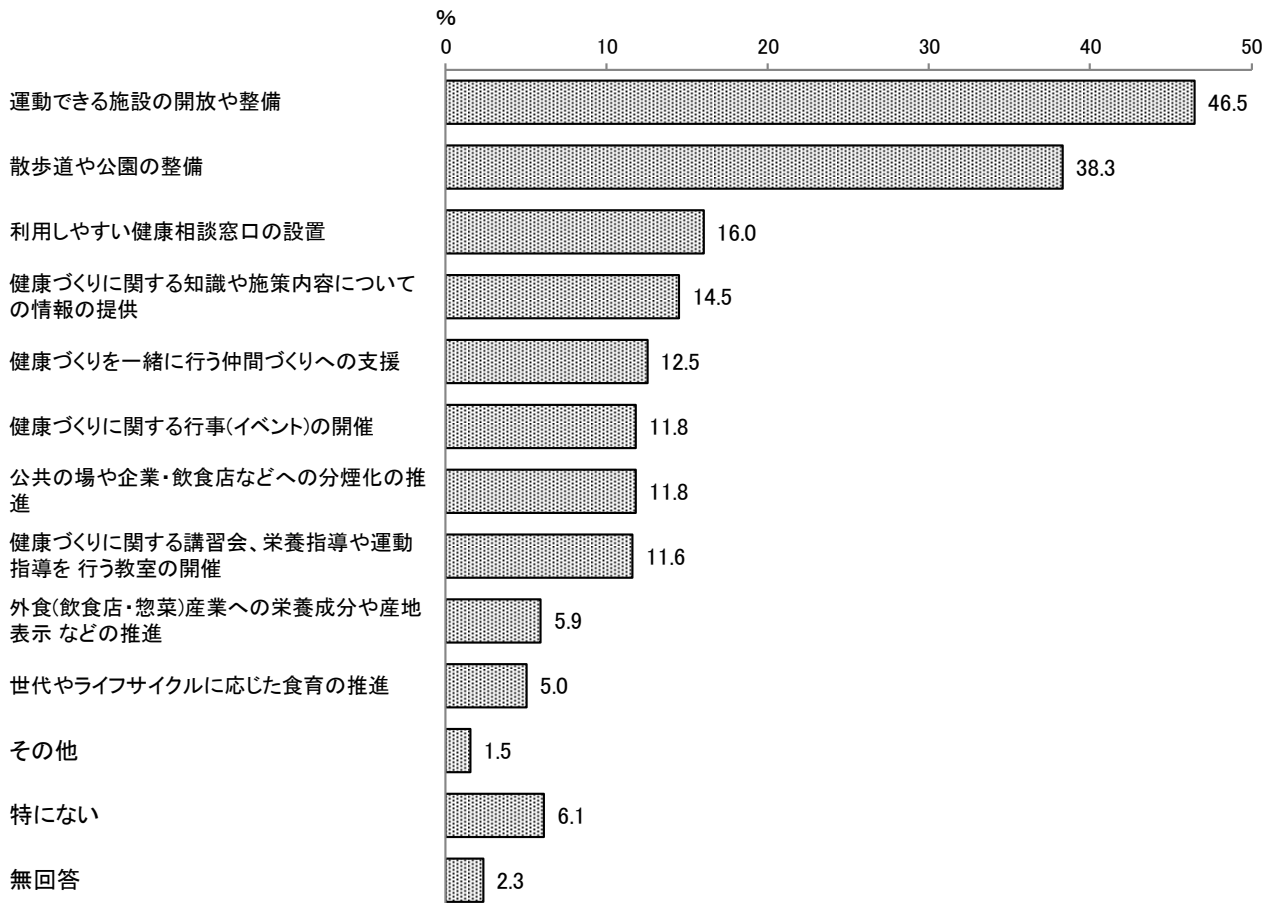
N = 874



○健康づくりのための重点施策〔複数回答〕

「運動できる施設の開放や整備」が46.5%と最も多く、次いで「散歩道や公園の整備」が38.3%となっています。「利用しやすい健康相談窓口の設置」、「健康づくりに関する知識や施策内容についての情報の提供」が15%前後、「健康づくりを一緒に行う仲間づくりへの支援」、「健康づくりに関する行事（イベント）の開催」、「公共の場や企業・飲食店などへの分煙化の推進」、「健康づくりに関する講習会、栄養指導や運動指導を行う教室の開催」が10%程度となっています。また、「特にない」は6.1%となっています。

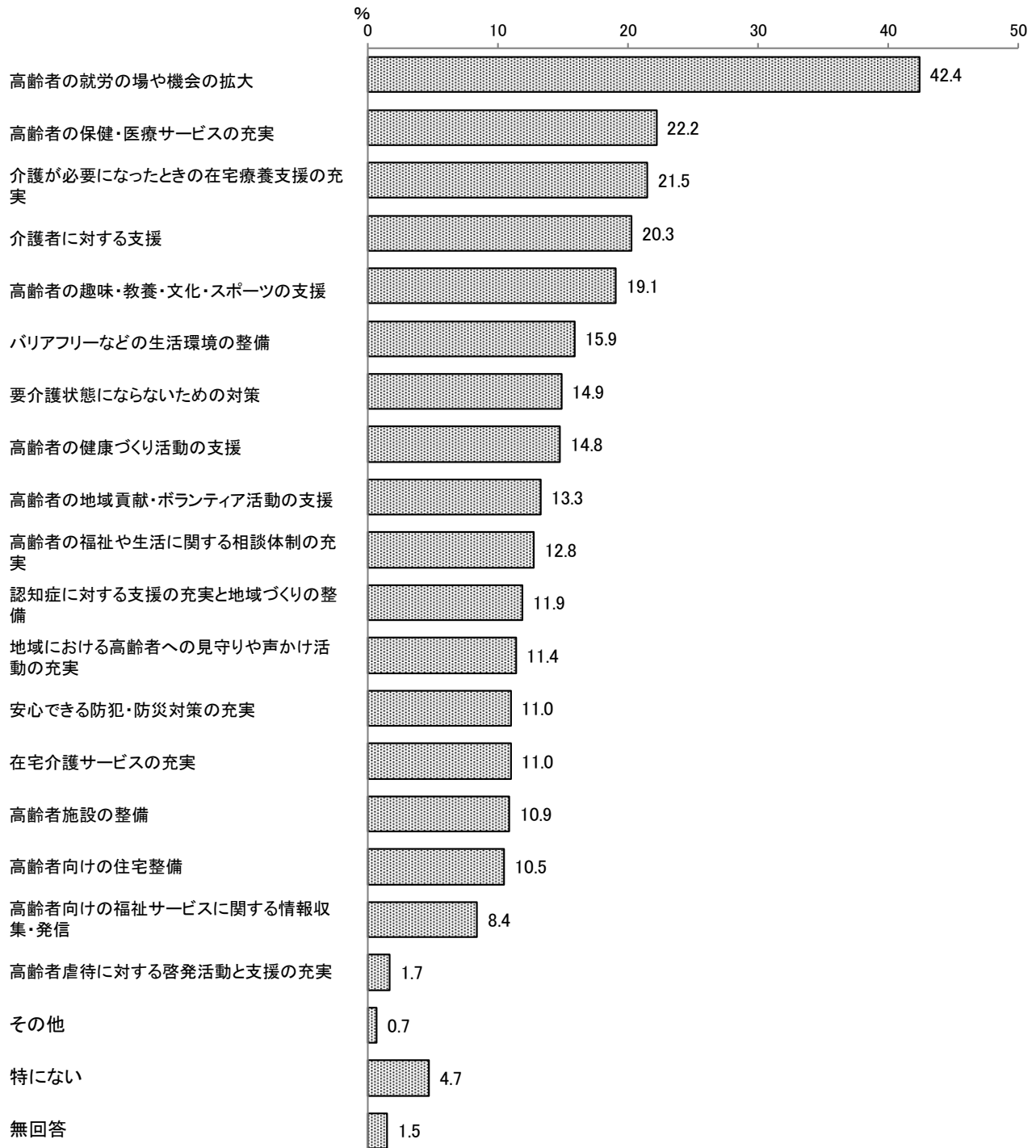
N = 874



○高齢者のための重点施策〔複数回答〕

「高齢者の就労の場や機会の拡大」が 42.4%と最も多く、「高齢者の保健・医療サービスの充実」、「介護が必要になったときの在宅療養支援の充実」、「介護者に対する支援」が 20%台となっています。また、「特にない」 4.7%となっています。

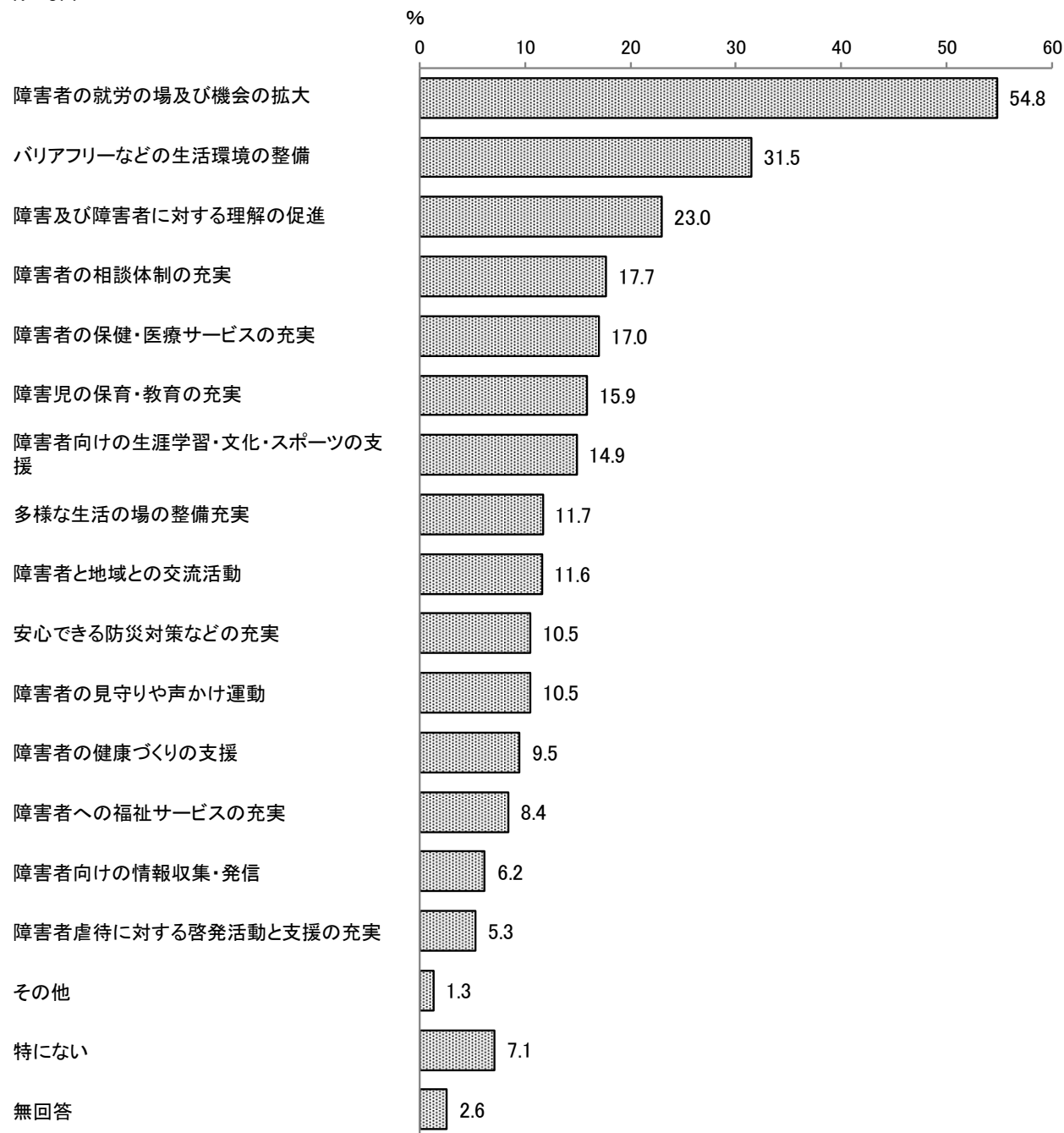
N = 874



○障害者のための重点施策〔複数回答〕

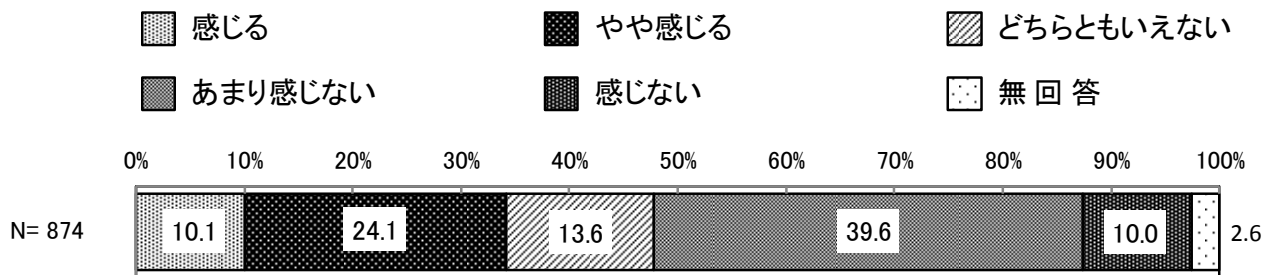
「障害者の就労の場及び機会の拡大」が 54.8%と最も多く、「バリアフリーなどの生活環境の整備」が 31.5%、「障害及び障害者に対する理解の促進」が 23.0%で続いています。また、「特にない」は 7.1%となっています。

N = 874



○日常的な不安感

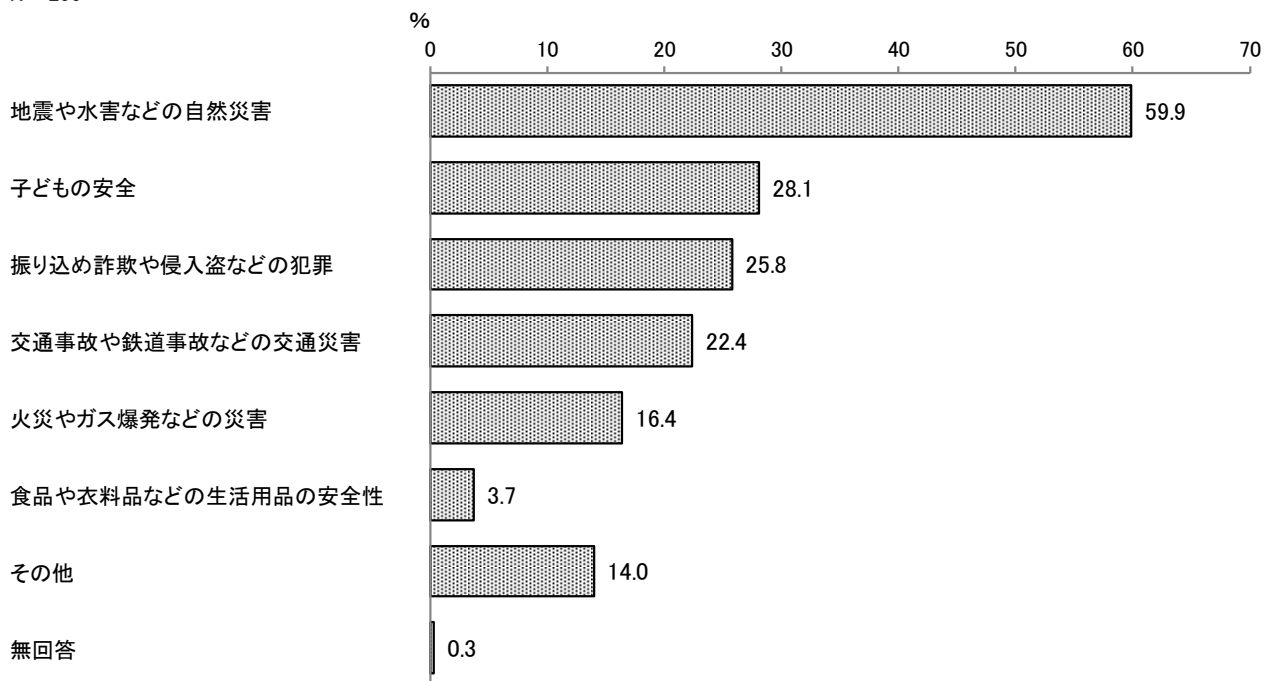
『感じない』（「あまり感じない」＋「感じない」）が 49.6%、『感じる』（「感じる」＋「やや感じる」）が 34.2%となっています。



○不安を感じる内容〔複数回答〕

「地震や水害などの自然災害」が 59.9%と最も多く、「子どもの安全」、「振り込め詐欺や侵入盗などの犯罪」、「交通事故や鉄道事故などの交通災害」が 20%台で続いています。

N = 299



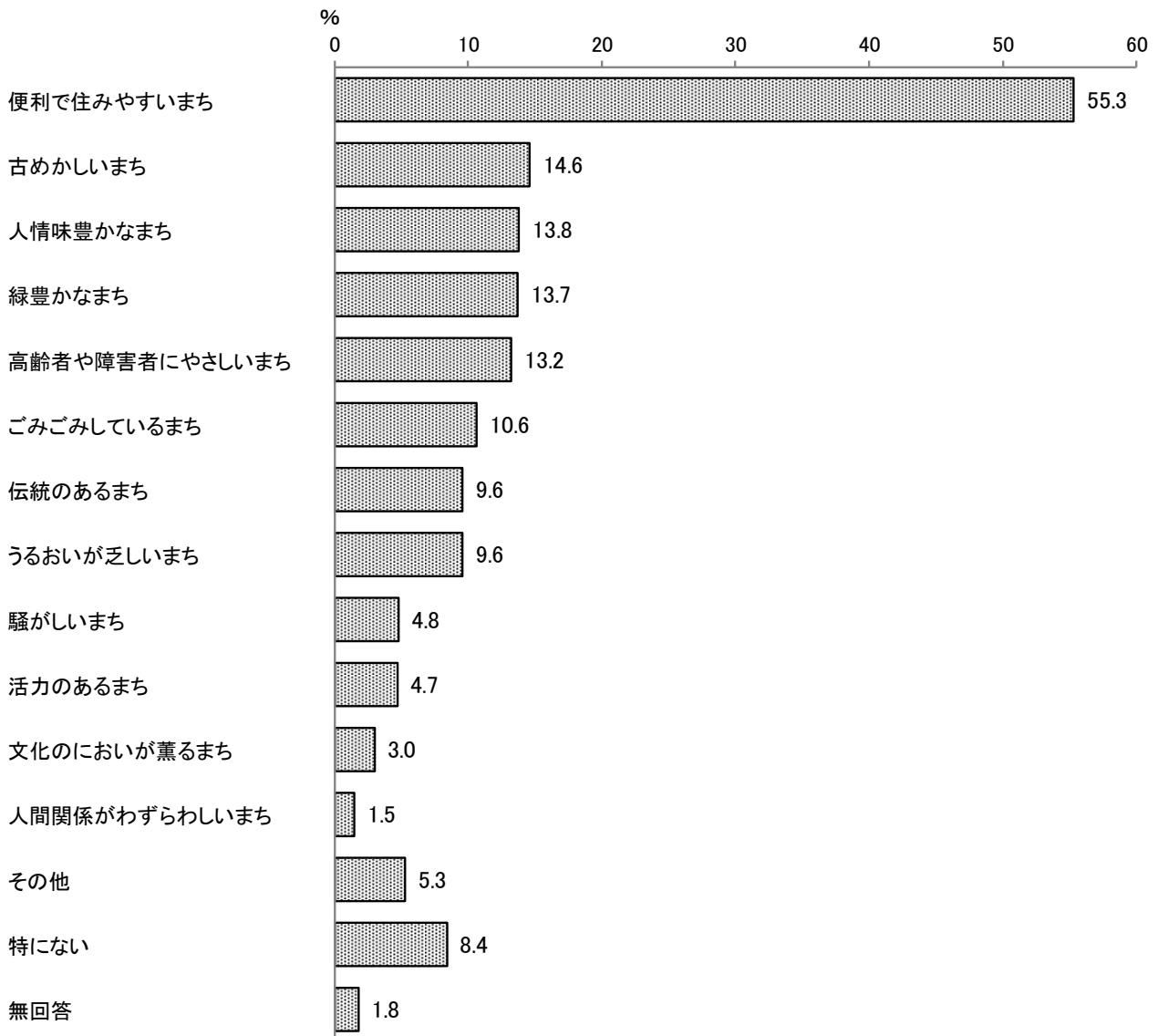
【クロス集計の分析（年齢別）】

60歳代で「地震や水害などの自然災害」が 70%を超え、多くなっています。

○区のイメージ〔複数回答〕

「便利で住みやすいまち」が 55.3%と最も多く、「古めかしいまち」、「人情味豊かなまち」、「緑豊かなまち」、「高齢者や障害者にやさしいまち」、「ごみごみしているまち」が 10%台となっています。

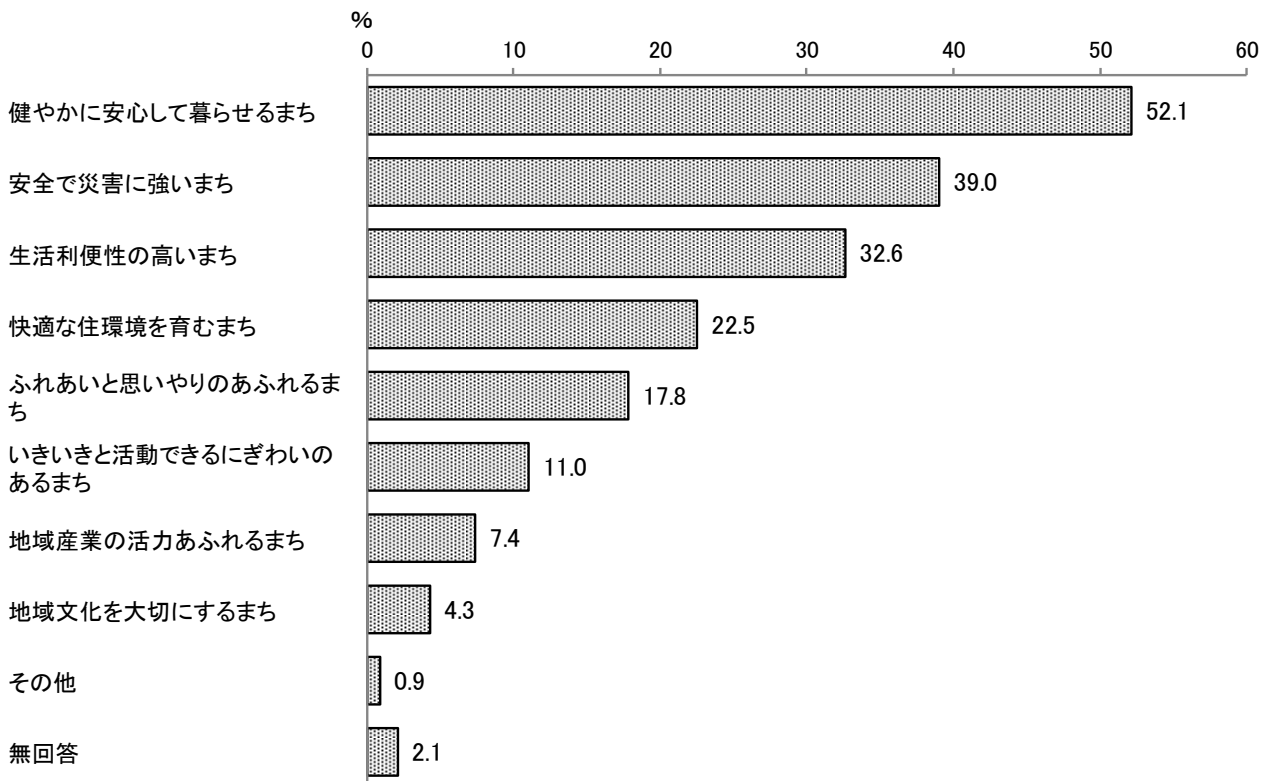
N = 874



○区の将来像〔複数回答〕

「健やかに安心して暮らせるまち」が52.1%と最も多く、「安全で災害に強いまち」、「生活利便性の高いまち」がともに30%台、「快適な住環境を育むまち」が22.5%となっています。

N = 874



○地域の将来像〔複数回答〕

「公園や緑などの多い自然と親しめるまち」が 53.9%と最も多く、「閑静で環境の良い住宅地」が 41.4%、「よい品物が安く購入できる商店があるまち」、「近隣相互の交流のある人情味あふれるまち」がともに 20%台で続いています。

N = 874

